



発行所
町田タイムズ社
郵便番号 194-0005
東京都町田市南町田4-24-20
編集発行人 山根栄子
電話 042(799)1100(代)
〈振替口座〉
00150-3-103219 武相新聞

— 緑豊かな英国調 —

ご宿泊・ご婚礼
ご宴会・出張料理
ボウリング
割烹千寿・茶里人家



ホテルラボール千寿園
JR町田駅南口前(P150台)
TEL 042(749)1121
http://www.hotel-rs.co.jp

町田市経営診断協会

40周年 決意新た

今後もし身近なパートナー

町田市経営診断協会(猿山康継理事長)の創立40周年記念式典がこのほど、市内のホテルで開催された。歴代理事長をはじめ、石坂文一町田市長や深澤勝町田商工会議所会頭、林伸光市商店会連合会長らが出席して、長年の功績をたたえた。会員たちは「今後も経営の身近なパートナーとして身を粉にしていく」と決意を新たにした。

盛大に記念式典

同協会は1978年4月に設立。国内経済がオイルショック(73年)などで不安定な中、市内では町田市民ホールの開館(78年)やJR成瀬駅の開業(79年)、JR原町田駅の移転(現町田駅。80年)などインフラ整備が進ちよくしており、市からの強い要望を受け、「市内の商店街や企業の経営近代化・合理化のために、市および経営諸団体に協力して診断改善にあたり、地域経済の発展に寄与する」を目的に、経営各分野の専門家20人が立ち上げた。町田商工会(現町田商議所)などからも高い期待が寄せられた。

以来、中小企業の支援や公開講座の開催、研修・セミナーへの講師派遣、各種調査・研究、中心市街地通行量調査への協力など、「経営のかかりつけ医」としてさまざまなコンサルティング活動の高橋和久代表。

午後4時から8時30分まで。定員は各先着20人。受講料は、個別参加が1万8千円(町田商議所会員は1万5千円)、年間一括申し込みが12万円(同10万円)。交流会費は別途各3千円(当日納入)。詳細は同協会ホームページ。www.mca-consul.gr.jp



40周年の感謝を述べる猿山理事長

「まちだ経営塾」開講

4月スタート 受講者を募集中

町田市経営診断協会は連続セミナー「企業経営のためのわかる!でき!つながる!まちだ経営塾」(12回)の受講者を募集している。

毎月1回の開催で、実践的セミナー、ゲストスピーカー講演、交流懇親会(任意)の3部制。講演の講師は、4月12日が町田商工会議所「私の好きなお店大賞グランプリ」受賞店、蔵屋の浅沼芳征代表。5月10日が東京商工会議所「勇気ある経営大賞特別賞受賞店」ワキュウトレーディング



本紙ご購入は本社か
下記読売新聞専売所へ

〈町田地区〉

南町	田瀬	(795) 2845
成町	田瀬	(721) 5041
町田	中央	(723) 2030
町田	東部	(722) 7746
町田	西部	(722) 3744
町田	駅前	(726) 9903
町田	木曾	(722) 3877
町田	学園	(728) 6675
町田	山崎	(723) 6523
町田	藤の台	(736) 1500
町田	鶴川南	(736) 5707
町田	緑山	044 (988) 9855
町田	北川	(735) 2038
町田	相原	(793) 2184
町田	相原	(700) 4450
多摩	境	(798) 1743

〈相模原地区〉

相模大野	(742) 5655
大野中央	(748) 0234
大野林	(743) 1043
古淵	(752) 0778
淵野辺中央	(752) 2213
淵野辺南	(758) 9505
橋本西	(774) 2211

きた。皆さんからの指導が役に立っている」と述べた。

深沢会頭は「商工会時代からの協力に感謝。昨今、事業者の問題は高齢化に伴った事業承継の難しさにある。経営者の平均年齢は95年の47歳から2016年には66歳になった。そのうち6割以上が後継者未定。このままいくと国内経済はどんどんと危惧し、全面的な協力を賜りたい」と相互協力の

強化も願った。

林会長は「商店会のメンバーは個人事業主が多く、柔軟な考えが出てくいで、皆さんの第三者

的なアドバイスに感謝している」と礼を述べた。

同協会の加賀谷泰雄初代理事長の発声で乾杯し、懇親会に移った。

来街者減少傾向続く 中活協が報告会

町田市

町田市中心市街地活性化協議会（大塚信彰会長）はこのほど、町田駅周辺の中心市街地における2017年の通行量調査の報告会を町田商工会議所で開いた。調査・分析は町田市経営診断協会が実施した。

調査は例年と同じ11月

あいさつする大塚会長



の最終日曜に実施。計測全44地点の総通行量は65万3677人で前回（16年）比9.9%、約6万人の増加となったが、前回調査時は雨天で客足が鈍かったため、晴天だった14年の調査と比べると4.3%、約3万人の減少で、「実質的には調査地点を増やした12年から減少傾向が続いている」とした。

通行量が多かったのは、MODI2階正面入口口前ペDESTロリアンデッキ（PD）が8万2611人（14年比10.9%増）でトップ。JR町田駅前PD5万1427人（同12.5%増）、丸井前PD4万4660人（同13.3%増）。少なかったのは、浄蓮寺通り（商工会議所裏）が11220人（同17.3%減）でワースト。町田文学館前1649人（同1.4%減）、グリーンパレス町田前2694人（同0.7%増）だった。

報告会に続き、町田駅周辺の歴史や来街者の動向、意識変化などの事例を紹介。商店街と競合する大手ショッピングセンターやネットショッピングの強みについても分析し、「トータルコストは、商品やサービスによりまちまちだが、町田に足を運んでもらうことが大前提。街おこしや街づくりには、世代間交流や地域の文化・産業の有効活用が有益」などとした。

大塚会長は「来街者の減少は商都・町田にとって一大事。古くから町田を見続けてきている調査の結果を、それぞれの事業の成長に、ぜひ役立ててほしい」と話していた。

前16.7%増（同7804人）、三井住友銀行前14.7%増（同3万1005人）の順。減ったのはJR町田駅南口31.6%減（同1万8852人）、重南米穀店前24.8%減（同6759人）、109向22.4%（9953人）となった。調査結果を踏まえ、同協会は「電車やバスの乗り換えと思われる通行量は増加。しかし回遊性（商店街へ足を伸ばす人の流れ）は減少したように見える」とした。